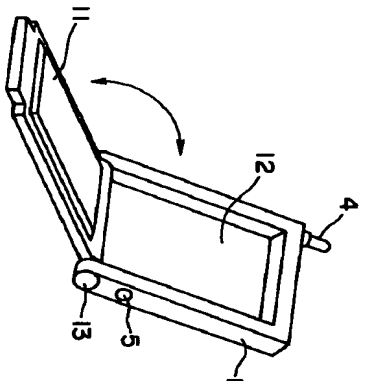


公開特許・実用 (抄録 A)
特開平11-155003

【名称】 携帯用通信装置		【発明の属する技術分野】 本発明は、デジタル信号の自動受信機能を備えた携帯用通信装置に関する。
審査/審査請求	未	請求項/発明の数 5 (公報 4頁、抄録 3頁)
出願/権利者	ミツヰ電機株式会社 (東京都調布市西町8丁目8番地)	公開日 平成11年(1999) 6月 8日
発明/考案者	2名 佐藤 英男	
出願番号	特願平4-335072	平成 9年(1997)11月19日
		Int. Cl. 6 雑記符号 G06K 1/02 G06K 17/00 H04Q 7/32 H04M 7/38 H04M 1/00 P1 H04M 1/02 G06K 17/00 H04M 1/00 ※ 図表終頁に続く ※

【要約】 本発明は、データ通信によるデジタル信号を自動的に受信および記憶し、後にP Cで読み取ることができるようにした携帯用通信装置を提供する。

【解決手段】 自動受信機能を有する電話回路部1と、この電話回路部で受信された信号を記憶する記憶部2と、この記憶部に記憶された信号を外部のパーソナルコンピュータ200に出力するインターフェース部3とを備えた携帯用通信装置であり、前記電話回路部を内蔵した本体部10と、少なくとも前記インターフェース部を内蔵し、前記パーソナルコンピュータのカーフスロット21に装着されるカーフ部11とを有し、前記本体部は前記カーフ部を収容する凹部12を有し、前記カーフ部は前記本体部に對し開閉可能に構成されていることを特徴とする請求項1(13) された構造である。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 自動受信機能を有する電話回路部と、この電話回路部で受信された信号を記憶する記憶部と、この記憶部に記憶された信号を外部のパーソナルコンピュータに出力するインターフェース部とを備えたことを特徴とする携帯用通信装置。

【請求項2】 前記電話回路部は、前記パーソナルコンピュータから送動される発信機部を有することを特徴とする請求項1の携帯用通信装置。

【請求項3】 前記電話回路部を内蔵した本体部と、少なくとも前記インターフェース部を内蔵し、前記パーソナルコンピュータのカーフスロットに装着されるカーフ部とを有し、前記本体部は前記カーフ部を収容する凹部を有し、前記カーフ部は前記本体部に對し開閉可能に構成された構造であることを特徴とする請求項1または2の携帯用通信装置。

【請求項4】 前記記憶部は、前記カーフ部に内蔵されていることを特徴とする請求項3の携帯用通信装置

【請求項5】 前記本体部は、前記電話回路部に対する音声信号の入出力に必要なジャックを備えることを特徴とする請求項3の携帯用通信装置。

【発明の実施の形態】 以下、図面に示した実施形態を参照して、本発明を詳細に説明する。図1〜図4は、本発明の一実施形態を示す構成図である。図4において、1は自動受信機能を有する電話回路部、2はこの電話回路部1で受信された信号を記憶する記憶部(例えば、RAM)、3はこの記憶部2に記憶された信号を外部のパーソナルコンピュータに出力するインターフェース部(例えば、P C M C I A イ n t e r f a c e)、4は電話回路部1に接続された送受信アンテナ、5は電話回路部1に接続された音声の入出力用ジャックである。電話回路部1は、前記パーソナルコンピュータから送動される発信機能を有する。

本発明の機能的な構成としては、図1〜図3に示すように、電話回路部1を内蔵した本体部10と、少なくともインターフェース部3を内蔵し、パーソナルコンピュータ(P C) 200のカーフスロット21に装着される

カーフ部11とを備え、本体部10はカーフ部11を収容する凹部12を有し、カーフ部11は本体部10に對し開閉可能に構成された構造である。記憶部2は、例えばカーフ部11に内蔵されている。また、本体部10は、電話回路部1に対する音声信号の入出力に必要なマイク/イヤホン接続用のジャック5を備える。

本発明の携帯用通信装置は、携帯時は図1に示すように、カーフ部11を折り畳んで本体部10の凹部12内に収容し、インターフェース部3の端子を保護する。この状態でもプラグ4による受信機能は働き、発信があれば電話回路部1は発信音を送ることなく自動受信する。

自動受信モードに入ると、電話回路部1は相手方がアナログの音声信号種類かデジタルの信号種類を判断し、音声信号種類の場合は送受マッセージを記憶部2から読み出して音声合成して送受する。この送受マッセージは、例えば「こちらはO O会社の△△です。これは自動受信のため、御用の方はピーという音の後に電話番号を押しして下さい(マッセージを入れて下さい)。ご連絡します」という内容である。

これに對して相手方が発出したマッセージあるいは電話番号があれば、電話回路部1はそれを、記憶部2に記憶する。一方、電話回路部1が相手方をEメールのようなデジタル信号種類と判断したときは、その後受信するデジタル信号を記憶部2に記憶する。

この携帯用通信装置の使用者は、図1に示すように、カーフ部11を本体部10から開き、更に図2のように、カーフ部11をP C 200のカーフスロット21に挿入する。そして、P C 200のディスプレイ22上に記憶部2から読み出した内容を表示する。記憶部2から読み出した内容が電話番号のデジタル信号であれば、それをフリップトに変換して表示する。この場合、P C 200に住所録等が記憶されている場合は、表示された電話番号から検索された情報も表示される。

送信する場合、P C 200のキーボード23から電話番号を入力し、電話回路部1を経由して発信する。発信通話時にはジャック5にマイク付きヘッドホンを挿入して会話する。

本発明の携帯用通信装置であれば、自動発信方式であるため、携帯電話に必要なテンキー等のキーや、発信を知らせるディスプレイ、通話中のマイクおよびスピーカ、文字装飾の液晶ディスプレイ等が必要になり、小型化できる。また、自動発信であるため、発信音で周囲に迷惑をかけることもない。更に、公共の場内で電話を切る必要もない。加えて、記憶部2の容量を大きくすれば、電池が消耗しても、P Cから供給できる利点もある。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明の一実施形態を示す携帯用通信装置のカーフ部展開状態の斜視図である。

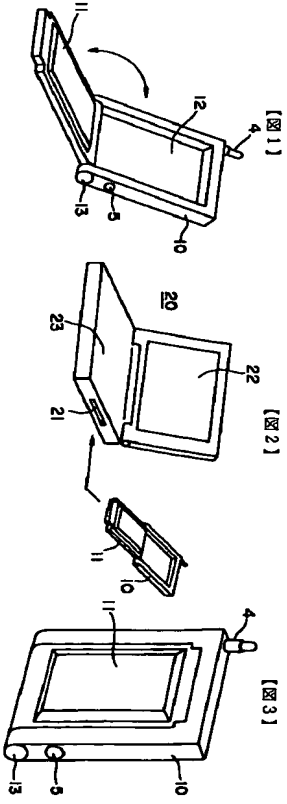
【図2】 図1の通信装置のP Cとの接続状態の斜視図である。

【図3】 図1の通信装置のカーフ部収容状態の斜視図である。

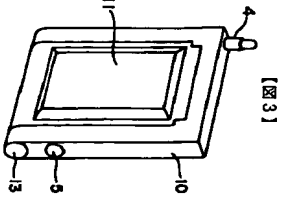
【図4】 図1の通信装置の内部構成を示すブロック図である。

【符号の説明】

- 1 電話回路部
- 2 記憶部(RAM)
- 3 インターフェース部(P C M C I A イ n t e r f a c e)
- 4 ジャック
- 5 送受信アンテナ
- 10 本体部
- 11 カーフ部
- 12 凹部
- 13 軸
- 20 パーソナルコンピュータ(P C)
- 21 カーフスロット
- 22 ディスプレイ
- 23 キーボード

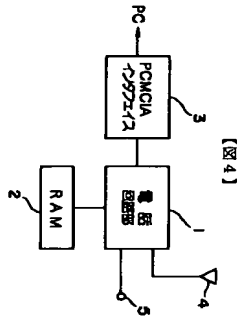


【図2】



【図3】

BEST AVAILABLE COPY



【特許的事項の概略】
【IPC6】 H04M 1/02;G06K 17/00;H04Q 7/32;7/38;H04W 1/00
【FI】 H04W 1/02;G06K 17/00;H04W 1/00;H04B 7/26;109
【識別番号または出願人コード】 000006220
【出願/権利者名】 ミツミ電機株式会社
東京都調布市国領町8丁目8番地2
【発明/考案者名】 矢嶋 英男
神奈川県厚木市酒井1601 ミツミ電機株式会社厚木事業所内
【出願形態】 J10

注) 本抄録の特許的事項は初期登録時のデータで作成されています。